

川辺川ダム「第3回環境保全対策アドバイザー会議」開く

2027年度、流水型ダム本体の基礎掘削に着手



会議の冒頭、挨拶する栗原川辺川ダム砂防事務所長

球磨川水系川辺川上流に計画している流水型ダムの第3回環境保全対策アドバイザー会議が9月15日、熊本市のホテル熊本テレサで開かれ、現時点における今後の事業スケジュールが示された。ダム本体1期目となる基礎掘削工事の公告手続き準備を進めており、2026年度内の入札公告、27年度の着工を目指す。今年度までに左岸河床部の工事用道路や仮排水路への魚道の設置などに着工しており、30年度の堤体打設開始、35年度の試験湛水を予定している。

この会議は、ダム建設に伴う環境への影響の最小化や環境再生・創出に向けた環境保全措置の取り組みについて助言をもらい、河川整備等に反映しようとするもので、25年6月に設置。委員は魚類や鳥類、水環境などの有識者10人で構成され、事務局（行政）側は、国交省九州地方整備局川辺川ダム砂防事務所、熊本県土木部河川港湾局河川課、オブザーバーとして九州地方整備局八代河川国道事務所、熊本県球磨川流域復興局が参加している。

会議の初めに、川辺川ダム砂防事務所の栗原太郎事務所長が「今年度は、次年度のダム本体基礎工事の着手に向けて環境影響評価で取りまとめた環境保全措置の具体化のために動植物の移植に係る調査・検討に取り組んでいる。さらに、実効性の確保を目的として、令和8年度から環境巡視を開始するなど、環境保全に万全を期しながら事業を進めている。環境に関する対象は数が多く、検討分野は多岐にわたるが、一つ一つの課題を丁寧に向き合い、着実に調査検討・実施を重ねることが環境影響の最小化につながる。環境への取り組みを一般に少しでも分かりやすく発信していきたい」と挨拶した。

そのあと行われた意見交換では委員から「県民へのPRのために動画撮影」や「ダム本体工事が始まったあとに環境がどう変化するかなどにも注視してほしい」などの助言がなされた。

同ダムは、球磨川流域の洪水被害防止・軽減を目的とした洪水調整専用ダムとして相良村四浦付近に計画。重力式コンクリートダムで、ダム高107.5m、堤頂長約262.5m、総貯水量13000万m³、貯水面積（ダム洪水調整地面積）約3.91km²。

種別	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
工事用道路											
仮排水路トンネル※ (魚道設置) ※仮排水路トンネルは、平成11年7月に施工済み											
ダム本体基礎掘削工事の準備(測量等)											
ダム本体基礎掘削工事 (堤体基礎掘削工)											
堤体打設											
管理設備工・放流設備工											
試験湛水											
建設発生土の処理工事											